

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会（城東ブロック）

団体の概要

本協議会は、東京都の公立学校難聴・言語障害通級指導学級の研究会であり、城東ブロックは荒川区・足立区・葛飾区の難聴学級1校、言語障害学級2校・難聴言語学級3校の小学校で構成されている。

研究テーマ

個のニーズに応じた支援の在り方
～難聴児の言語力を育てる指導～・～吃音のある児童の思いに寄り添って～

研究のねらい

各校の実態から難聴と吃音の2つのグループに分けて研究を行った。難聴グループでは、難聴児の言語力を評価する方法や指導法について研究するために本テーマを設定した。吃音グループでは、吃音のある児童の思いに寄り添うために、児童の願いや困っていること、担当者の児童への向き合い方について研究を行っ

研究の内容・成果と課題

（難聴グループ）

3名の児童の実態を聴力検査、標準化検査、独自検査から把握した。独自検査は、絵を見て自由作文を書かせ、音韻・語彙・統語・語用の4観点で評価した。評価をもとに指導を行い、自由作文の変化から再評価した。

実態把握の観点を揃えたことで、言語力を段階的に評価することができ、軽・中等度難聴児の3名は、一般的な知識や事象の理解が定着しにくい傾向があることに改めて気付けた。しかし、絵の提示の仕方児童の作文に差が出たので、提示方法や絵について今後検討が必要である。

（吃音グループ）

各教室で、吃音に関する基礎研修を行い、児童の実態を把握するための共通項目を決めた。目指す児童像は、児童により異なるため、個々に設定することとした。児童に寄り添うためのアプローチとして、「個別指導でのやり取り、発話コントロール、グループ活動」の3つとした。

分析は、逐語記録により行った。児童の思いに寄り添うという観点をもつことで、丁寧なやり取りを心掛け、児童のニーズを常に考えながら指導できた。吃音指導については、一人一人の状況も異なるため、児童と向き合いながら指導を行う必要がある。

今後の活動予定

今後は、今回の研究の成果を生かし、各教室の実態や課題に応じた研究を行っていく。

代表者・連絡先

代表者：荒川区立第三峡田小学校 校長 伊藤 英夫
連絡先：荒川区立第三峡田小学校 教諭 百瀬 翔悟
03(3891)0756 s-momose@mail.aen.arakawa.tokyo.jp